



発行所
安芸郡芸西村
芸西病院
TEL 0887(33)3833

発行責任者
岩村 久
<http://okura-kai.com/geisei/>



新任のごあいさつ

精神科医師 高橋 秀俊
(高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学 特任教授)



2020年10月より月1回、主に第4土曜の午前に芸西病院で精神科外来を担当している高橋秀俊です。本務は、2019年4月に高知県からの寄附により県内の児童青年期精神科臨床を責任もって長く担える医師の育成体制の構築のため、高知大学医学部に開設された寄附講座児童青年期精神医学で、高知大学医学部附属病院では子どものこころ診療部で診療を行っています。また、火曜の午前には藤戸病院で精神科外来を担当しています。

私は、高校までは兵庫県芦屋市で過ごし、1992年に

東京大学工学部土木工学科を卒業後、2000年に大阪大学医学部医学科を卒業し、大阪大学精神医学教室に入局しました。2005年に大阪大学大学院医学系研究科博士課程を修了し、2010年にカリフォルニア大学サンディエゴ校精神医学教室にて海外研究を行いました。主な研究テーマは、精神障害の情報処理機能と社会機能との関連なら

びに多職種地域連携に基づく精神医学的支援体制整備です。2011年に国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部児童期精神保健研究室室長に就任し、発達障害や子どもの心のケアに関する様々な領域に関わりました。特に発達障害の聴覚過敏に関する研究により、発達障害を持つ当事者や家族が社会生活で抱える困難さが理解しやすくなり、最近では映画館やスポーツパーク、マーケット、サッカー競技場などの社会生活空間での感覚に優しいセンサーリフレンドリーな取組の我が国への導入に発展し、高知でもセンサーリフレンドリー上映会などが行われています。

近年、発達障害、不登校、児童虐待など、子どもの心の問題が増え、地域ベースで医療・保健・福祉・教育など多領域によるライフステージを通じた切れ目のない支援を継続する体制整備が求められています。2020年7月より、高知大学医学部附属病院を拠点病院として高知県でも「子

な領域に関わりました。特に

子どもの心の診療ネットワーク事業」が開始され、県内の多領域の関係機関と連携した専門的な地域支援体制の構築を図っております。

芸西病院の皆様には、高知に來た当初より、発達障害の児童を対象としたりハビリ度お世話になる機会が多くありました。また、大学病院の子どもこのころ診療部に通院中の方で、ある程度状態が安定した方、特に県の東部の方を、芸西病院に転院してフォローさせていただきます。コロナ禍にあつております。コロナ禍にあつて、子どものメンタルヘルスケアの重要性がますます認識されていますが、子どもを支える家族や支援者の皆様も大変な状況だと思います。今後もしばらく、無理のない連携を継続していけるよう皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いたします。

高知大学医学部附属病院を拠点病院として高知県でも「子

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	山崎(第1)	岩崎(第3)	山崎	八木	清藤(第1・3)	八木	大西(第1)	八木	山崎	山崎	麻生	休診
	八木(第2・4・5)				八木(第2・4・5)		八木(第2・5)					
精神科	大崎	岩村		岩村	藤戸良輔	大崎	廣瀬		清水		休診	休診
											(第1) 廣瀬 (第2) 村上 (第3) 廣瀬 (第4) 高橋 (第5) 交代制	

外来診療担当医

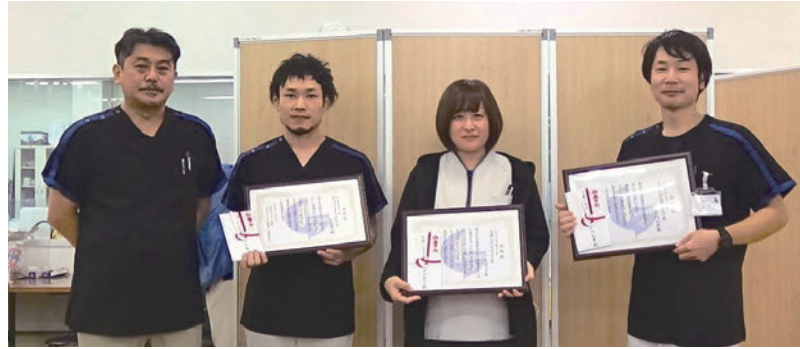
令和3年7月1日より



院内咲き初めの桜 (2月28日)

令和3年度上半期優秀スタッフ表彰を終えて

リハビリテーション部



「皆のフォローをしてくれた
で賞」の受賞に思うこと

理学療法士 小松 勝人

皆の
フォローをして
くれたで賞



優秀スタッフ表彰は、スタッフの働く意欲向上を目的に令和3年上半期より導入したリハビリテーション部独自の表彰制度であり、年に2回実施されます。日頃の頑張りを「スタッフからの推薦」で評価し、得票数上位3名を表彰します。今後も評価基準の精度を更新しながら継続して実施していきたいと思えます。

この度、リハビリテーション部の優秀スタッフとして「皆のフォローをしてくれたで賞」という名誉な賞を頂きました。僕自身はむしろ、皆にフォローして頂いている立場ではないかと思えます。近日においては、修士論文に加え、依頼論文や勉強会の講師依頼など、学術活動が活発となりました。日々の業務と並行して学術活動を行うことは、なかなか骨が折れる、と実感しているところです。日々の業務においても、皆の業務量を少しでも減らせないか、と試行錯誤は行っていますが、まだまだ課題が残るところです。皆が働きやすい環境作りは難しい、そういった状況でも、スタッフ同士がお互いに関心を持ち、評価し合える環境であるからこそ、こ

のような賞が実現したのだと思います。そのようなスタッフの中から優秀な3名の一人に選ばれたことは非常に誇りに感じるところです。まだまだ未熟者ではありますが、この賞に相応しくなるよう、日々精進していきたいと思えます。

「気遣いスペシャリスト賞」を受賞して

リハビリ事務 谷淵 幸子

気遣い
スペシャリスト賞



リハビリテーション部、事務の谷淵です。

この度、優秀スタッフ表彰で「気遣いスペシャリスト賞」を頂きました。私が選ばれるとは思っていません。本当に驚きました。

早いもので入社して今年で5年が経とうとしています。前職と職種が異なり、また前任者との引継ぎ期間が短く、仕事の流れや事務の仕事等覚えることがたくさんあり、入社当初は大変な日々が続きま

した。事務員は私一人なので、とても不安だったことを覚えていますが、そんな中、困っている私に優しく声を掛けてくれる、溜まっていた仕事を手伝ってくれる周りの方々の助けがあったからこそ、頑張ってきたことができました。私一人の力では、ここまで続けてこれなかったと思います。

小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんが日々来院されます。対応も患者さんによって様々です。これからも、一人一人に丁寧な対応を心掛け、毎日笑顔で仕事に励みたいと思えます。

「丁寧に対応できたで賞」を頂いて

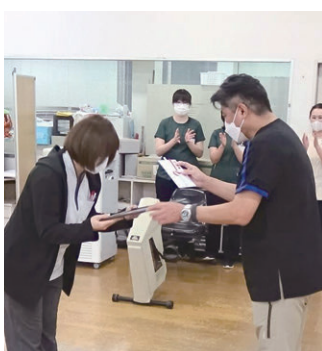
作業療法士 山内 元貴

丁寧に
対応できたで賞



今回、リハビリテーション部優秀スタッフ表彰として、「丁寧に対応できたで賞」を頂きました。初めに、「まさか自分が選ばれるなんて」と驚き、日々熱心に業務に奮闘している大勢のスタッフが居る中で、この賞を頂いたことをとても嬉しく思います。今

回の賞に関し、私が大切にしている事を書きたいと思えます。医療専門職として、新しい技術・知識を持って、より良いサービスを提供することが求められています。良いサービスの難しい所は、ご利用者一人一人の求めるものが十人十色であることです。こちらが良いサービスと思うだけで、一方通行になる可能性があります。そこで、なるべく良いサービスを提供するには何が必要かを考えた時に、一つは接遇であると思えました。基本である接遇は意識をすれば直ぐにできることでもあるので、意識して取り組んできました。その結果を評価して頂いたことで、今後もより良い関わり方を磨いて行こうと思うことができました。これも、周りの良い仲間、良い環境のおかげであると思えます。最後に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。



新しい取り組みをはじめました！

精神科作業療法室 作業療法士 石丸 真由美

皆さん、ためしてガッテンという番組はご存じですか？落語家の立川志の輔さんが、身近な話題や悩みをクイズ形式で解き明かし楽しく学ぶ人気番組です。精神OT室では、昨年より、その番組からヒントを得て、新しく「ためしてガッテン」というプログラムを始めました。精神科病棟に入院されている患者さんにとって興味があることや困りごと等身近な話題をテーマに、当法人で勤務するその道のエキスパートの職員に講師を依頼して学び、正しい知識や情報を得て、皆で話し合い、生活をより良くしていく事を目的に行っています。



第一回目には、「手洗いや手指消毒について学ぼう」をテーマに実施しました。コロナ禍になり、面会や外出が制限され、作業療法のイベントも縮小や中止をせざるを得ない状況が続いています。患者さん達からは、「コロナって何？」「いつまで続くがやろう」という不安の声が聞かれ、急速に求められたマスクの着用や手洗い・手指消毒に慣れず戸惑う方が多くいらっしゃいました。共に感染対策を行う中で、患者さん達が感染症について学ぶ機会が無いこと、不安や困っていることを詳しい方に問いかける機会が無いことなど様々な気づきがありました。そこで、当院の医療安全管理室長に講師を依頼し、動画と漫画形式の冊子を用いながら実技を交えて感染症について学びました。皆さん熱心に耳を傾けていましたが、グループワークになると「外出がまた出来なくなるんじゃないか心配」等と様々な思いを吐露される方もおり、その思いを皆で分かち合いながら今、私達に出来ることを確認できた時間でした。

その他にこれまで実施してきたテーマは、「地震の備えについて」、「ストレスとの付き合い方について」、「身体の仕組みや運動について」、「上手な人付き合いについて」と患者さんのニーズに沿って多岐に亘っており、毎回15名以上の方が参加されています。



プログラムの最後に記入していただくアンケートには、「これからも学びによって頑張って生きていきたい」「助かります。これからも続けてほしい」と支援者としてハッとさせられるような率直な言葉がいつもあります。これまで試行錯誤しながら実施していく中で、必要な知識や情報を知ってもらう機会を広げ、正しく知り理解を深めることを支援することは漠然とした不安を軽減していくと感じています。また、一人ではなく、同じ悩みや立場を持つ方が集まり、安心が保障されている場でその思いを語り分かち合い、どう対処していくか一緒に考えることは、主体的な生活の一步となり「自分らしい生活に」に繋がるのではないかと思います。これからも、患者さん達の言葉や思いに寄り添いながら意味のあるものとなるよう、継続してこのプログラムを実施していきたいと考えています。

看護部業務改善発表会を行いました

放射線室長 診療放射線技師 廣地 祿代 (QC審査担当)



QC活動(Quality Control: 品質管理)という言葉をご存じでしょうか。

日常業務の小さな問題点に気づき、現状を把握、それを統計的な視点から調査・分析、得られた結果を全員で把握し、具体的に業務に反映していくことで少しずつ状況の改善を得ていきます。しかしこのコロナ禍ではさらに気にしなければならぬ業務が増え「今、ものすごく困っているわけではないから」と気づいてもつい見なかったことにしなくなりそうです。しかしそういったところにこそ、患者さんの療養生活のレベルアップや業務負担減のポイントがあり、日々の業務改善、そして職員

の業務へのモチベーション向上につながります。

当院看護部では、15年前より毎年、各部署で一つの問題に取り組み、成果を発表する場として3月に「看護部業務改善発表会」を行っています。

今年も病院、やわらぎ併せて7部署のエントリーにて開催しました。

5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に基づいたクリーンアップ作戦や、ある業務を定期的に行きと行っていないための方法など、当り前のことを、より当り前にするための取り組みが発表されました。日常業務の中で様々な考え、取り組み、看護・介護の質の向上に努めようとする姿勢が随所に見られ、結果を残していくことでまた見えて



くる新たな気づきや問題点、その解決にも力を注いでいきたいと思えます。

また、この取り組みは部署内完結ではありません。活動をポスター展示、さらに皆の前でプレゼンし、評価を受けるというのも大きな目的です。

発表に際し、掲げたテーマがわかりやすいか、課題の選定は適切か、その問題を分析し得られた結果をどうビジュアル化するか。それらを具体的にまとめ、聞き手にわかりやすく伝える、全てが評価対象です。

これらは日常業務の中では磨きにくいスキルではありませんが、これを身につけると業務の中での互いの意思疎通はもとより、患者さんとのコミュニケーションなどに十分生かしていけるものでもありません。

プレゼンテーションの仕方は音楽やロールプレイなどインパクトのある動きもOK、様々な工夫し努力してきた内容はもちろん、見ても楽しい

る業務改善発表会となりました。継続することに加え伝えることの難しさや楽しさも体験する機会になったのではと思います。

- 金賞：2B 病棟
「クリーンアップ大作戦」
- 銀賞：1 階内科
「気持ちいい～入院環境を提供しよう」
- 銅賞：3B 病棟
「爪切りが定期的に行える」



調理師(正職員)

調理員(パート職員) 募集

急募!

業務内容：院内・併設老健の給食調理業務
勤務時間、待遇面等、詳しくはこちらまでご連絡ください

医療法人おくら会 **芸西病院** 安芸郡芸西村和食甲4268

電話 **0887-33-3833**

担当：事務局 (田岡 有澤) 栄養科 (近藤)

現場栄養士 調理師 調理員

初めての方も大歓迎です。

大募集中!!



仕事内容は主に盛り付け・配膳・食器洗浄などです。未経験者の方も働いてます～洗浄パートさんも募集中!(仕事終わりや昼間の短時間でも大丈夫です)

新春フエスティバル

事務局係長 有澤公人

本年も精神科の入院患者様対象に院内で新春フエスティバルを開催しました。コロナ禍により昨年からは始めた同フエスですが、今年は感染予防の観点から会場での飲食の制限が加わり、参加者に満足していただけるか個人的に少し懸念してのスタートでした。

個性が溢れ、中には目を見張る絵馬もありました。次は最高得点者には豪華景品が出る輪投げゲーム。参加者はじっくり狙う・淡々と狙う・ただ投げる…等々、それぞれの投法で高得点を狙いました。開始序盤に40点台を叩き出した方がおり、結局その方が優勝となりました。

会場に入ってまずは絵馬の作成です。参加者の2022年の願いや抱負を書いていたが、会場の壁に奉納しました。それぞれの絵馬にある内容を見ると、作成された方の

最後は外れなしのガラガラくじ。特賞が出るとりハ部長が持つ鐘の音が会場内で盛大に響き渡り、参加者は喜んで景品を受け取りました。特賞以外でも参加者本人が景品を選択し、その場ですぐ身に着けたりする姿を見て、新春フエスの成功を確信、当初の懸念は取り越し苦労だったと感じました。

新春フエス成功の背景には、お正月らしい会場の装飾やその他準備など、精神科作業療法担当職員の皆様への思いが多分にあると思います。コロナ禍による制限がある中、その時々に適した作業療法を模索する職員



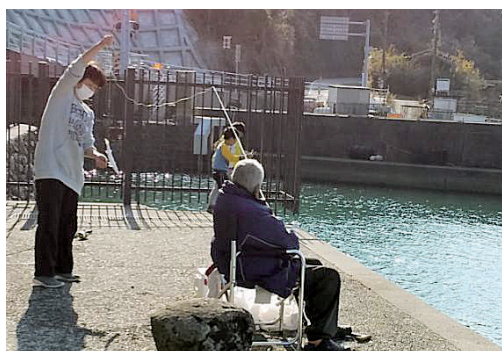
新春フエス成功の背景には、お正月らしい会場の装飾やその他準備など、精神科作業療法担当職員の皆様への思いが多分にあると思います。コロナ禍による制限がある中、その時々に適した作業療法を模索する職員

に頭が下がると共に、今後も患者様のために頑張つて貰いたく陰ながらお手伝いをしていこうとします。



リレーエッセイ No.69 釣り初心者の私

1階内科病棟 看護師 岡林 史子



に当てんばあに投げたらえいわ」と父に笑われながら、今年も釣りに挑戦中です。そんな中でも、一度に3匹掛けたり、30センチ以上の大物を釣り上げることもあったり、孫たちと一緒にその感動にハマっています。



餌釣りはブリやチウオも釣れる場所なので「私も釣りたい」と言うとう「素人には無理、それを釣るには腕が要る」と父の一言。まあ、私は食べただけなんですけどね。

昨年冬から、観光地としても有名な手結漁港に「カマスの群れが入ってきている！」との情報がありました。今年90歳になった釣り好きの父親と一緒に早起きをし、朝六時から仕事前の1時間ほど釣りをすることがあります。とはいえ、私は釣り初心者。目標ポイントめがけて竿を振り下ろすとポイントよりも随分斜め右40度にポチャン！「こりゃ、カマスがおるところに投げんか！俺がそんな投げ方をしよったら怒られるけど、おまんはまあ…：だれが見ても素人やと解るき、船

まだまだ父に沢山教えてもらいながら、顔のシミは増えるけれど釣りの腕が上がるように頑張りたいと思います。



やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念
その人らしさを尊重し
人と人とのつながりを大切に
明日につなげるケアをめざす

令和3年度楽々介護教室「おしっこのお話」

芸西村地域包括支援センターより報告／感想をいただきました！

芸西村地域包括支援センター一同

講師 リゾートビルやわらぎ総師長 野町清佳

日時 令和4年1月12日(水) 午後

会場 村民会館ホール

芸西村では、リゾートビルやわらぎの大いなるご協力を得て協働で楽々介護教室・介護予防講演会を開催しています。住民の参加も多く、毎回楽しみにされている方もいらつしやいます。今年も、コロナ禍のため楽々介護教室「おしっこのお話」のみとなり、大変残念です。(来年度こそ全部の開催を!!)

さて、今回で3回目となる排泄のお話ですが、今回も野町総師長さんの優しい語り口、字も大きく見やすい資料、またいろいろと媒体もご準備してくださり、大変わかりやすいと好評でした。なかでも、おむつの選び方や使い方のことなどが印象的だったと思います。おむつの構造やサイズ・吸収量なども考慮し、おむつが合っていないと、スキントラブルや姿勢の崩れにもつながることなど、個人に合った排泄ケアの大切さは、当たり前のようで奥が深いと



講義中



実演中

令和3年度 第3回身体拘束廃止・虐待防止研修会



全老健イメージキャラクターROUKENくん

生け花クラブ



感じました。排泄と生活の質は関連がつよいということを改めて考える機会となりました。今後、地域包括支援センターとしても、相談のあった住民の方がきもちよく過ごせる排泄ケアのアドバイス、今回の教室内容を活かして行っていければと思います。来年度もよろしくお願いいたします。

「地震・火災に備え訓練やりました」

施設長 中本 雅彦

令和4年3月1日(月)震度7の南海地震を想定しての災害避難訓練(今回は実技)を実施しました。緊急地震速報が施設内に流れ、利用者・職員が一齐にシェイクアウト(頭を守る・しゃがんで低い姿勢・じっとする)、3〜4分間の激しい揺れが続く(地震音を全館放送)、職員はインカムを災害チャンネルに設定し被害状況を共有する。一時的に揺れが治まったかと思いきや火災報知器が鳴り響き防災盤にて出火場所エリアを確認、インカムで火災現地確認の指示が出る、火災発生が職員に周知され消火器を持った職員が現地に駆け付け無事に消火する。僅か15分ほどの訓練ですが、有事の時にすべての職員が主体的に命を守る行動ができることをめざしましたやろう!というも振り返ります。その後は芸西村福祉避難所やわらぎ



ご利用者の防災頭巾



エアマット



簡易ベッド



防災倉庫グッズ整備中



発電機



「やわらぎ公用車1号」へ感謝、お疲れ様でした!

やわらぎ開設記念日の2日後となる令和4年1月21日、長きにわたりやわらぎの送迎車両として活躍したハイエース号とお別れしました。

平成9年秋、やわらぎの開設に向け送迎車両第1号として購入しましたトヨタハイエース号、専用ストレッチャー・オートリフト付き車両は当時はまだまだ珍しく法人内でも注目の公用車でした。

納車以来24年と数か月、総走行距離は32万キロを超え、この間延べにして約38,000人のご利用者の送迎に尽力してくれました。

小さなアクシデントは少なからず……しかし大事に至る事故はなく、時にはストレッチャーにてご利用者の他科受診へ、そして毎日安全にこの地域の多くの高齢者の在宅生活を支えてくれました。

お疲れ様でした、そしてありがとう「やわらぎ公用車第1号ハイエース!!」



やわらぎにて新たなユニフォームを導入しました。

昨年10月頃より相談室への導入を皮切りに、現在では介護支援専門や通所リハビリスタッフなどへも導入されています。カラーバリエーションが豊富で、それぞれが好みの色を選択しています。このユニフォームを見かけた方は気軽にお声がけください。お待ちしております。

防災倉庫にて、カセットガスボンベ式の発電機や簡易ベッド、エアマット等の取り扱い方法について職員間で共有しました。今回の実技訓練は、コロナ禍もおちついて、芸西村地域包括支援センターや民生委員さん、地域の方々をお誘いし、炊き出しも兼ねて「美味しい災害訓練」にしたいと思えます。

節分会・誕生日会



新年会

新しい年を迎えた1月5日に、利用者の皆さんと一緒に手作り神社で初詣をしました。お賽銭もしっかり入れた後、手を合わせて思い思いに今年の抱負やお願い事をおっしゃっていました。お一人お一人とゆっくりと関わりながらお参りをし、素敵な一年の始まりとなりました。長引くコロナ禍が一日でも早く終息するようにという思いも込めて作成した神社に願いを託し、日常が戻ってきた際には施設の外へ初詣に行きたいですね。



クリスマス会



無我夢中

36

看護師長 山崎 裕美

まだ寒さはありません。つも菜の花などが咲き、春に近づいていることを感じられるようになってきました。今、私が「無我夢中」になっていることを少し書かせていただきます。

我が家に3歳のミニウサギ(オス)がいるのですが、名前は「おくら」です。娘が同級生のお宅で生まれた子ウサギをもらってきて3年経ちました。ミニウサギなのでもちろん小さいサイズのまま育っており、やんちゃな割には少食で、あまり大きくならず体重は1.3kgほどしかありません。県外に出た娘の代わりに毎日世話をしていますが、それもあってかとても懐いてくれ私が行く所へずっと付き回って追いかけてきてくれる姿がとても可愛らしいです。

私が小さい頃に家でウサギを飼っていましたが、家にいる動物という感覚で今のおくらのようにペットとして可愛がることはありませんでした。こんなにウサギが懐いてくれる動物だとは思いませんでした。おくらは撫でてもらうことが好きですが、構われることが嫌な時は離れています。ウサギは若干ツンデレなので、気が向けば『かまって〜』などで『〜』と言わんばかりにアピールしては、私の膝の上に飛び乗ってきます。そんなおくらの可愛らしさとモフモフの毛を撫でることに夢中で、私を含め家族の皆がとっても癒されています。体の小さい家族ですが、今後もやんちゃで元気に長生きしてもらいたいなと思います。

